

南御堂の正月

大阪には南北2つの別院（御堂）があります。北御堂（西本願寺系）と南御堂（東本願寺系）です。2つの御堂をつなぐ道が御堂筋。その道を拡充整備したのが、メインストリートである現在の御堂筋です。

わが家の一年は、南御堂への初詣りで始まります。正月を祝う食事を済ませ、南御堂で阿弥陀如来に手を合わせる。家庭を持って以来、続いている行事です。実家の宗教が浄土真宗だったこと、家内の実家が浄土真宗のお寺であること、そんな事情で、なんとなく南御堂に行くようになりました。

正月にこのお寺にお詣りをする人数は多くありません。近所はビジネス街ですから、お店も開いていません。境内も狭いので、歩くこともありません。順次人がやってきて、静かに手を合わせ、黙って帰って行く。落ち着いた雰囲気を楽しむことができます。

今年、初めていくつかの掲示物に気づき、そこで2つのことを知りました。

まず、大阪の旧地名は、尾坂とも小坂ともいうそうです。大阪になったのは16世紀後半。石山本願寺が建てられ、門前町が生まれたときです。蓮如（室町時代の浄土真宗の僧）が、小坂を大坂と呼び変えたのだそうです。たぶん、「人心一新効果」をねらったのでしょう。そうであれば、人事制度改定も人心一新効果。同じ制度に別の名前をつけるだけでも、効果

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲「大谷本願寺」銘の梵鐘

が上がるのかもしれない。職務給だ職能給だといっても、内容は同じ。実務ではそんなことが可能になっている（皆さんに叱られそうですね）。そんなことを思い浮かべました。

次に、東本願寺のルーツ。それが大阪です。信長に敗北した石山本願寺。その十数年後に、渡辺（今の南御堂の近くに地名が残る）に大谷本願寺を建立。徳川家康の寄進によって京都に移転して東本願寺。そんな経緯で、南御堂には大谷本願寺時代の梵鐘が残っています。

街を歩き、好奇心のままに観察していると、いろいろなことに気づきます。観察こそが研究の出発点。職場や働く人々の状況をしっかりと観察することが、地に足のついた職場開発の出発点。魚の眼で考え、足で考える人事担当が増えるよう、微力を尽くしたい。そんな願いを再確認できた初詣りでした。

（MBO実践支援センター代表 大阪商業大学特任教授）